

紙 季 折々

しき*ありあり

日本製紙グループ

環境・社会コミュニケーション誌

Vol.11



紙をつくる、森をつくる、未来をつくる

森をつくる、それは、私たち一人ひとりが森の恩恵に気づき、その恩恵を未来の世代に届けていくこと。
森の恵みを利用することで存続・発展してきた企業として、日本製紙グループは、長年にわたって事業活動の
中で持続可能な森林経営を行ってきましたが、さらに未来のための「いのちの森づくり」を開始しました。

May.30
in Marunuma

「楽しくて、夢中になって木を植えた！」



5月30日の朝、日光国立公園で知られる群馬県片品村の丸沼高原リゾートに続々と人が集まってきました。ここは、第1回 未来のための「いのちの森づくり」宮脇 昭先生といっしょに木を植えよう！」の開催会場です。地元の片品村や都内はもとより、遠くは和歌山県から、子どもから大人まで約700名の皆様にご参加いただき、ブナ、ミズナラ、トチノキ、イタヤカエデなど25種類合計1万本の植樹がスタートしました。

最初は慣れない手つきで苗を植えていた大人も子どもも、汗をぬぐいながら1本1本植えていくうちに、だんだん熱中し始めました。そして、みるみるうちに横200メートル、縦20メートルの斜面には苗木が植えられ、2時間後には苗を守るワラも敷き詰められました。

植樹終了後には、おにぎりや炊き出しのトン汁を頬張る参加者の皆様から聞こえてきたのは、「楽しくて、夢中になって木を植えた！」という達成感にあふれる声でした。



丸沼高原リゾート
日光国立公園の西端に位置する丸沼高原は、湖と白根山麓に広がる樹林に囲まれた自然豊かな温泉リゾートです。一年中、季節それぞれの楽しさであふれています。



森をつくることの大切さを知る

未来のための「いのちの森づくり」は、国内外1700カ所に4000万本以上の木を植え、「日本で最も木を植えた男」と称される、宮脇昭・横浜国立大学名誉教授にご指導をいただいで実施しています。

この植樹活動は、二酸化炭素の吸収による温暖化防止や、土砂災害などの防止に貢献するとともに、今ではその多くが失われてしまった「土地本来の森づくり」を行うことによって生物多様性の保全に寄与することを目指しています。そして、宮脇先生の提唱される「経済と共生する森づくり」の試みとして、高級な家具材として利用されるケヤキや、パットの材料であるアオタモなど、資源として将来活用できる木の苗木も一緒に植えました。

植樹の意義について、宮脇先生は「地球温暖化の問題が叫ばれ、省エネ活動が盛んになっていきますが、それらはいわば生活を我慢する、という引き算の取り組みです。引き算だけでは持続できません。木を植える、という足し算の取り組みを増やしていきたい」と植樹の前夜祭として開催された講演会で語られています。

前夜祭で講演する宮脇先生



また、「地震や火災など自然災害から私たちを守ってくれる土地本来の森は、現在では多くが失われてしまいました。だから、自分たちの手で木を植え、未来のために貴重な森を残していけないといけない」という訴えには、多くの参加者が頷いていました。

明日のために、今日、木を植える

森の恵みを利用することで存続・発展してきた日本製紙グループは、「生物多様性に配慮した企業活動を基本とする」ことを環境憲章に掲げ、豊かな森を未来に残していくためのさまざまな取り組みを進めてきました。森林経営では、たとえば森林認証を取得し、環境と社会に配慮しながら森を管理しているほか、海外植林を積極的に展開しています。現在の海外植林面積は東京23区の約2.7倍に相当する16.6万ヘクタールに上り、事業活動と一体となった森の保全・利用を進めています。

こうした事業における活動だけでなく、豊かな森を未来に残す新たな取り組みとして、今回実施した未来のための「いのちの森づくり」が加わりました。一般参加者および日本製紙グループの従業員一人ひとりが自らの手で苗を植えて森をつくっていくこう、という試みです。

私たちは、今後もこの森づくりを通じて、森に対する高い意識と感謝の気持ちを持ちながら、未来のための森づくりを進めていきます。

植樹当日の流れ

Start!



1 植樹前：スキー場脇の斜面のふもとには苗が用意

宮脇先生に植え方を実践指導していただきました。



4 植樹1：スタートは土を掘り返し、苗を植える作業

植樹後のトン汁は大人気でした。



5 植樹2：敷き詰めるワラは苗を乾燥から守り、養分にもなる優れたもの



3 開会式：植樹に先立つ開会式では約700名の参加者が一堂に



2 事前準備：植樹がスムーズに進むようスタッフと宮脇先生とで打ち合わせ

Finish!



傾斜が急なため、当日植え切れなかった斜面にも後日苗を植え、植栽地を完成させました。

普段あまり運動しないので、体を動かして気持ちよかったです。自分の植えた苗がちゃんと育っているか、また見に行きたいと思います。

植樹は初めてでした。私でもできるか不安でしたが、スタッフの方が親切にアドバイスしてくれたので、楽しく植樹ができました。



植樹で汗を流す芳賀社長（株）日本製紙グループ本社



参加者のサポートに備え、事前に植え方を学んだ当社グループ従業員





PROFILE

たけした・けいこ

1953年愛知県生まれ。NHK「中学生群像」出演を経て、1973年NHK銀河テレビ小説「波の塔」で本格的デビュー。映画「男はつらいよ」のマドンナ役を3度務め、「学校」では第17回日本アカデミー賞優秀助演女優賞を受賞。2007年、舞台「朝焼けのマンハッタン」「海と日傘」で第42回紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。テレビ・映画・舞台への出演の他、2005年日本国際博覧会「愛・地球博」日本館総館長をはじめ、「世界の子どもにワクチンを日本委員会」ワクチン大使、国連WFP協会(国連世界食糧計画)顧問、C・C・C富良野自然塾でのインストラクターなど幅広く活動している。

地球がどんなに繊細で、油断をすればたちまちこのバランスが崩れてしまい、しかもその原因を作り出しているのは実は私達人ひとりの生活にもあるんだということを知っていただけるようにお話ししながら、そのコースを歩きます。

地球がどういう状態にあるか気づくことが大切です。

テレビ・映画・舞台上で活躍する竹下景子さんは、さまざまな社会貢献活動にも積極的に参加しています。そんな竹下さんに「富良野自然塾」の活動についてうかがいました。

6年ほど前になりますが、脚本家の倉本聰先生から「富良野自然塾」というNPO法人を立ち上げるので参加しませんかというお誘いを受けました。倉本先生が塾長になって、ゴルフ場の跡地を緑の森に還す活動を始めるというので、喜んで参加させていただきました。今年も7月29日と30日に行われた「3世代ファミリーキャンプ」という1泊2日のプログラムのインストラクターを務めさせていただきました。近年は三世代が同居しているご家族は少ないですし、おじいちゃん・おばあちゃんと一緒にテントで寝るという経験も今の子ども達にはなかなかできないことなので、それだけでも有意義だと思います。

1日目の環境教育のひとつに「46億年地球の道」という、フィールド内に設けられたコースを約1時間かけて参加者と一緒に歩くプログラムがあります。地球が生まれてから現在までおよそ46億年が経っているわけですが、そのとつともなく長い時間を自然塾では460メートルの距離に置き換え、さまざまなドラマを乗り越えて今の地球があり、生物が何度も絶滅の危機を迎えたことを実感として学べるようになっています。

地球温暖化と言われていますが、温暖というとハワイみたいにくれぐれと暖かくて気持ちがいいというような良いイメージにとられがちなので、自然塾では危機感を持っていただくために「地球高温化」というふうに言っています。高温化の原因は200年前に産業革命が起こり、人間が化石燃料を消費することを覚えて、その大量消費の結果、二酸化炭素の排出量が増えたことにあります。200年前というのは「46億年地球の道」では、ゴール(現在)のわずか0.02ミリ手前でしかないんです。

石炭でいえば3億5000万年前、石油でいえば2億年前につくられた地球からの大事な贈り物をわずか200年足らずの間に人類はほぼ使い切ってしまうおとしいている。そして、それが高温化の原因になっている。情報として知っていても、まだまだ自分と離れた問題として捉えている風潮が強いので、今、地球がどうい状態にあるか気づくことの大切さをお話しているんです。

2日目の午前中の後半に植樹をして、プログラムは終了します。植樹の前に実生の苗を見つけて採る作業もするのですが、すぐには移植できないので、スタッフが用意してくれた実生の苗を3本セットにして植えます。木が三つなので自分の「森」を作りましょう。植樹するのはミズナラ、ヤチダモ、イタヤカエデ、ヤマモモ、エゾヤマザクラ、ハルニレといった富良野の代表的な樹木です。

実生の苗は「カミネッコ」
という再生紙ダンボールから作られた六角形型の植栽用紙ポットに入れて植栽します。土ごと移植するので苗にストレスがかからず、ゴルフ場跡地のやせた土地でも根付きます。「カミネッコ」は小さな苗を保護するとともに、やがては土に還る優れた物なんです。紙にはこんな利用方法もあるのかと改めて感心させられます。



富良野塾の植樹で使った「カミネッコ」

当社グループCSR報告書が優秀賞を受賞

日本製紙グループが発行したCSR報告書2009が、「第13回環境報告書賞・サステナビリティ報告書賞」の環境報告書部門で優秀賞を受賞しました。今回、過去最多の413点の応募があるなか、環境報告書部門で最優秀賞が一点、優秀賞が二点選ばれています。表彰理由として、「事業活動と環境の関係を軸にして、原料調達にも責任を持つ視点を丁寧に説明している」と評価をいただきました。



表彰式の様子

エコフォト大賞を開催

日本製紙グループでは6月の環境月間に合わせて、グループ従業員とその家族を対象とした写真コンクール「エコフォト大賞」を開催しました。「自然の中の生き物たち」など3つのテーマが設定された今回は、大賞として日本製紙(株)北海道工場の遠藤三枝子さんの作品が選ばれたほか、11作品が賞状となりました。



大賞「工場内で子育て中」

TOPICS

編集後記

5月に行った植樹に対して、アンケート等を通じて、様々なご感想をいただきました。それらの多くは「楽しかった」、「また植えたい」、そして「成長するのが楽しみ」という声で、木を植えることを多くの皆様に楽しんでいただけたようです。来年も、丸沼高原の大自然の中での植樹を計画しています。ウェブサイト等でまたご案内させていただきますが、植樹を楽しみ、丸沼の自然を楽しんでいただけるようなイベントにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。(笹間)

お問い合わせ先

株式会社日本製紙グループ本社 CSR本部 CSR部 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-2-2 TEL: 03-6665-1447
ホームページ: <http://www.np-g.com/inquire/> (お問い合わせ) <http://www.np-g.com/appliform/> (資料請求)

